

オフライン対応映画検索・推薦サイトの開発

近年、映像コンテンツは複数の配信サービスやプラットフォームに分散し、利用者は作品情報を横断的に探す必要が高まっている。一方で、多くの商用サイトはスクレイピング等の機械的取得を規約で制限しており、オンライン API も鍵管理・レート制限・仕様変更といった外部要因に左右されやすい。そこで本作品では、公開データセットを端末内に保持するローカルファーストの方針を採用し、通信状態に依存せず、広告や登録に煩わされない「落ち着いて探してすぐ読める」映画情報探索体験を提示することを目的とした。

本サイトは、Kaggle に公開された約 5,000 本の映画メタデータを前処理して利用し、HTML/CSS/JavaScript のみで動作する静的 Web サイトとして実装した。トップ（入口と簡易検索）から、ジャンル別・検索結果・ランキング・関連表示・詳細へ短い手順で往復できる導線を設計し、年・ジャンル・評価等の条件指定と並べ替えを同一画面内で即時反映することで、軽量な操作感を重視した。さらに、作品比較や再参照を支援するため、お気に入り機能を実装し、複数画面間で状態表示が同期するようにした。

評価は、上地宏一准教授ゼミ所属学生 33 名に実際に利用してもらい、Google フォームによるアンケートで実施した。その結果、実用性（目的達成度）は肯定的評価が過半を占め、検索・絞り込み結果の適切さも概ね良好に受け止められた。また、機能面は「現状で十分」とする回答が多数であり、最小 UI・オフライン前提という狙いの妥当性が確認できた。一方で、自由記述では、日本語入力への対応、ポスター等の視覚要素、UI の洗練、オンライン併用への要望が挙げられ、入力・表示の使い勝手が満足度のボトルネックになりうることが示唆された。

以上より、本作品は外部サービスへの依存を最小化しつつ、オフラインで完結する映画探索環境を実現し、基本機能の有用性を確認できた。今後は、設計方針（合規性・再現性）を維持したまま、日本語入力支援、視認性改善、導線強化などの段階的拡張を行い、より継続利用しやすい情報探索基盤へ発展が期待できるだろう。